第19回 町田市景観審議会専門部会(評価検証) 会議録要旨

日 時	2015年7月24日(金) 午前9時00分～午後12時00分
場 所	町田市役所2階 2－3会議室
出席者	<委員>(敬称略) 名和田是彦、鈴木伸治、二井昭佳、小川正彦(4名) <事務局> 地区街づくり課職員(5名)
傍聴者	なし

■会議内容　〇あいさつ
〇会議の成立（定数確認・欠席者の報告)、会議の公開に関する報告（傍聴者報告）
〇調査･審議事項
・議題１４－０３号　「町田市景観計画」の評価検証について

■配布資料　〇委員名簿
〇次第
〇座席表

■議事
〇現地視察(非公開)
（視察にて、景観づくりの取り組み事例を確認した）
〇あいさつ
〇町田市景観審議会規則第６条第２項の規定による会議の成立に関する報告
（５名のうち４名の出席により、会議の開催について成立）
〇「町田市審議会等の会議の公開に関する条例」第３条の規定による会議の公開に関する報告
（傍聴者なし）
〇調査･審議事項
・議題１４－０３号　「町田市景観計画」の評価検証について
【事務局】(事務局より付議事項について資料を用いて説明)
【部会長】　説明の内容は、調査状況の報告と評価検証作業についての報告である。調査状況報告の内容は、実践施策の実施･進行状況について。２番目が成果指標、目標水準の調査、これはアンケート調査である。３番目にヒアリングで、ヒアリングはまだ完了していない所があるが、それ以外は終わったということである。
もう１つが評価検証作業のフォーマットについてである。フォーマットそのものに関するご意見はこれまでも若干いただいているが、今回試験的に事務局でたたき台を入力した状態で資料を出しているので､中身についてもできれば何らかのことをおっしゃっていただきたい。こちらについては次回また、整理された形で資料が出るので改めてご議論いただければと思う。

まず調査報告について、市民意識調査の中で著しくは下がっていないのだけれども、「景観を意識しながら暮らしていますか」という質問が、若干下がっていたが。あれの解釈はどうしたのか。従前の値は、これは景観専門の市民意識調査だったのか、それとも、町田市の一般的な市民意識調査なのか。

【事務局】　毎年行われている全体的な市民意識調査ではなく、景観単独の市民意識調査の結果である。

【部会長】　市民意識調査の結果を眺めながら、年代によって意識が違うのかもしれないと感じた。町田もそれなりに転入、転出が多くあるかと思うし、高齢者が亡くなって若い人に入れ替わるということもある。そういうことが背景にあるとしたら、もう少し施策ＰＲの仕方などを変えていかないといけない。

【事務局】　年代の構成について、高齢者の方の層から多目に抽出されているという結果になった。また、コメントの中で普段あまり家から出ないから景観について考える機会もなく、住んでいる所以外の景観については知らない、よく分からないと言うコメントも多く見られた。大きい割合である高齢者層の方々の中にもそのようなコメントがあることが、今回の結果につながっているのではないかと思う。

【部会長】　人口の高齢化が作用しているということか。

【委員】　コメントというのは大事そうだ。割合は前回と回答者が異なるため多少のぶれはどうしても出るような気はする。特に全体指標「日常の生活の中で景観を意識する市民の割合」が従前値９１％だったので、他の聞き方なども考える必要があるのかもしれない。今回の目標値が９５％という設定だったのが、そもそも現実的ではなかったかもしれない。

【委員】　コメントを拾うことが重要になると感じる。あまり数字の羅列や目標値、前回比など数字で追われるよりも、今、景観というもの大枠に対して市民がどの様な発想でいるかということが重要では。内容も分からないし、知ってもいないのだから評価のしようがないというのが一番生の声だろう。パーセンテージの対比も必要だが、明確に対比して同じ質問を繰り返すというわけにはいかないと思う。

短絡的かもしれないがこの結果を見て全体的にいい感じではないかと思う。取り組みとしては、景観賞は市民に対してインパクトがあったと思う反面、十分に浸透していなかったのだと感じた。

先程視察で公共事業景観形成指針の協議結果を見に行ったが、もっと建物の色彩や景観については、景観審議会が関与していますというのを出せばいいのではないか。宣伝することで明確に市民に「こういう制度によってこの建物の色とか形が決まっているのだな」と思ってもらう必要があるのでは。それには庁内でもクリアしなければいけない問題はあるかもしれないが、プレートや名前を完成したものの中に名前を入れるなど、町田市というよりも景観審議会を前に出すべきではないか。それによって景観という意識や、審議会というのがクローズアップされてくると、もっと市民意識調査にも反映されるのではないか。

【部会長】　市民意識調査の問８「あなたは下記の取り組みが行われていることをご存知ですか？」で大体の選択肢に対して数値が低い結果になっているが、１０％を超えた項目に景観賞が入っている。市民の中でも特に認識が高い制度に受賞したというのは多くの人にとってはすごいことなので、１つの切り口になるのではないかと思う。

景観計画の達成という点からすると、取り組みである実践施策をやり抜くことにより、それが作用して指標が達成される、パーセンテージが上がっていくと考えられている。実際、こ

の実践施策を実施することで、本当に数値が上がっていくのかということも仮説であり、これだけのことをやっても全然変わらないということであれば、また別なことを考えなければと思う。

あくまでも数字の解釈、あるいはコメントの解釈などが重要になってくると思うが、今回の評価・検証作業の中で、この実践施策がどのように作用して、数値がどう変わっているかといったことについても見ていかなければ駄目ではないかと感じている。

【委員】　評価検証作業案のフォーマットについて、現状値からの変動や目標値からの変動という表現はおかしいのでは。アンケートの結果だとかそういったものが現状なのだから、従前値からの変動だと思うし、目標値からの変動というのは、目標値から変わっていくわけではないだろう。

【委員】　目標値からの変動は必要ないのでは。

【委員】　従前値との比較や、目標値との比較という様に表記する、または目標値が書いてあるだけでもいいかもしれない。

【部会長】　評価･検証作業のフォーマットに関するご意見だったが、協働体制という欄については変わらないということか。調査結果の内容も含めてご意見をいただきたい。

【事務局】　成果指標･目標水準に関するフォーマットは､基本的に景観計画にあるものを基にしている。

【委員】　そもそも調査結果の実施状況の一覧について、実施済みという表現がいいのか。取り組みの中には継続していくものも多いのでは。「実施済み」としてしまうと、例えば実証社会実験みたいなのはもう二度とやらないような印象を受けてしまう。

【事務局】　一覧の中では短期でできたものと、中長期まで繰り上げで実施したものを区別するようにしている。

【部会長】　実践施策というのは、その取り組みが作用して景観計画の定めている指標の目標値をクリアしていくというイメージなので､「済み」というと、そこで作用させるのをやめるのかというように見えてしまい、確かに伝わりにくいということはあるかもしれない。

【委員】　実践施策の実施状況について、公共事業景観形成指針の事例として尾根緑道整備事業は市としては土木系事業で初めてプロポーザルというのをやっているのでそれは書いていただきたい。いわゆる競争入札ではないやり方というのはいい景観をつくっていく時の手法として非常に大事だと思う。

また、中心市街地活性化協議会へのアンケートについて、例えば「中心市街地の景観についてどのような印象をお持ちですか」という質問に良い、悪いという選択肢だけだと悩ましいと思うので、どういうところはいいとか、どういうところは悪いという様なのを書いて、その結果を取り組みに繋げてもいいかもしれない。

「今後取り組んでみたいこと」についても例えば実証実験だったらオープンカフェみたいなものをやってみたいなど、そういうことを書いてもらうと、少し今回のヒアリングが中心市街地の取り組みにも使えるのでは。

【部会長】　アンケートの実施では、回答者へ直接説明を行うのか。

【事務局】　説明用のパワーポイントを使い、見ていただきながらその場で丸をつけていただく予定。

【部会長】　意見を踏まえながら、書きやすく、しかし、今のご指摘のいろいろな論点が出てきやすいようなものにしたほうが良い。

【委員】　具体的にどこが気になるのかとか、具体的にどんな実証実験とか、どんな景観づくり活動を

やってみたいのかというところまで書かせるようにすると、市の施策も次に打つ時にやりやすいのでは。

【委員】　どこがあまり景観的によくないかみたいなのは、そこで活動しているからすぐ書けると思うが、取り組みたい内容については、具体事例を出したりすると、「ああ、そんなのやりたいな」とイメージがしやすいかもしれない。

【委員】　回答者に直接コメントを聞くというのもあるのでは。

【事務局】　ちょっと時間がないので丸を振っていただき、自由意見は直接聞く余裕が無いため記入欄を設けて回収する予定である。

【委員】　「この計画を知っていますか、知っていませんか」や、「取り組みに参加したことがありますか」という質問は中心的な話題にせず、現状に対しどのような印象を受け、これからどうしたいかということを聞くチャンスや、回答者にも今後景観について考えてもらうための情報提供の場として使っても良いのでは。

【部会長】　啓発の機会として捉え、例えば生活風景宣言など、これも景観づくりなのですというように相手の琴線に触れるような写真とか話とかを織り交ぜて啓発的に行い、それを見ながら設問に答えていただくと、自由記述をしていただけるかもしれない。また質問数を絞り、かつ導入的な説明も心がけるようにすると良いかもしれない。

【委員】　アンケート内にある景観実証実験に「景観」とついているのは何か限定するものがあるのか。例えばオープンカフェ、あるいは歩行者天国みたいなのをやってみるとか、道路上に椅子を置けるようなのをやってみるとか、そういうのは景観実証実験に入らないのか。

【事務局】　含めているが、あくまで景観という視点で聞かせていただいているのでそのような表記になっている。

【委員】　景観というときれいにすることが景観であるという様にみられている所がある。事業者からすると、要は売り上げに繋がらないものなのに何故やらなければいけないのかという感じを受けてしまう。

商業地の場合は、おもてなしではないが出迎えたりしてもらうためにやること自体が景観に繋がるので、本当はその様なことを回答者にも伝えられれば良い。

【部会長】　商店街に椅子を置くというのは結構見られる取り組みかであるが、例えば椅子の色調を統一して、ちょっと感じの良い雰囲気を出すといった工夫も景観、見た目の取り組みになると思う。

【委員】　庁内に対して行ったヒアリング調査結果について、「市の景観形成業務は良好な景観形成に寄与していると感じられるか」という質問に対し、「事例が少ないので比較が難しい」という意見があった。公共事業景観形成指針の制度の活用にしても、事業の担当者しか景観の協議がどのように行われているのか知らないと思われる。こういう協議をして、こう変わりましたとストックしていくことが大事であると感じた。

また、協議が重なると事業に支障を与えてしまうという意見については、これまで民間で行われてきたものが公共事業景観形成指針などの制度によって民間レベルになったという認識でいるべきではないかと思う。

【部会長】　新しい仕組みであるため、役所の中で権威を得ていくというのはそれなりの努力が必要である。景観という切り口で庁内の様々な関連部署に対してものを言っていくというのは、やはり景観を担当している課も力量を上げなければいけないが、公共事業において景観を意識し

なければ行政ではないという認識を次第に形成していくことも必要である。余計な負担になるものはなるべく減らしながらも確立していくべきことではないかと思う。その第一歩がここに表れていて、やはり最初はこのような反応が当たり前であるという気持ちで是非前進してもらいたいと思う。

【委員】　景観審議会や景観の取り組みが庁内でどの程度浸透しているのか。庁内でも知らない人がいるのでは。

【事務局】　いると思われる。庁内ヒアリングでももっとＰＲする場があった方が良いのではという意見が出ている。

【委員】　庁内ももちろん、町田市民に向けてもアピールすべき所は貪欲にアピールしていかなくてはいけない。

【委員】　評価・検証作業について、課題の欄の他に今後への取り組みのヒントにつながるような欄があってもいいのかもしれない。課題だと、こういう課題があるねということだけで終わってしまう。

【部会長】　今後の方向性を示すようなことを記す欄ということか。評価があって課題が明確にされ、では、今後どうするかというものがあるのが通常である。

【委員】　項目が多いので、全項目に対してそれやるのか、全ての項目にかかるものについてはまとめて示すかというのはあるが、次の５年に繋がる柱をどこで抜き出してくるかというのがあると、動きやすくなるのではと思う。

【部会長】　この評価･検証の結果は最終的に町田市景観審議会の名前で提出されるという認識でよろしかったか。

【事務局】　そうです。

【部会長】　そうであれば、将来の取り組みに対する方向性について積極的に書き込んでいかないと、実際に取り組む立場が動くことができないだろう。そのためにも専門部会としてもどんどん意見を出すべきである。

【委員】　将来の取り組みに対するものであれば、広報の必要性に関しては、景観賞をよりアピールすることや、市民活動を活発化させるために小中学校への教育の一環として盛り込んもらうことなどが書き込めるかもしれない。また、実際の取り組みでは公共事業景観形成指針の運用について、ある程度マニュアル化することで景観協議の負担を減らせるかもしれないなどといったことが、この評価･検証作業において書き込めるかもしれない。

【部会長】　評価検証作業の各項目が並ぶ前後どちらかに、全体を通してこういうことが言えるという様なことを書くなど、議論の中で、繰り返し出ていることがあったらそれについて書くと良いのでは。

例えば、全体を通して学校などとの繋がりといったことはあまりやっていないようだが、幾つかの項目に関わってくると思うので、こういったことをフォーマットの外に総論として書くことも想定しておくと良いかもしれない。

【委員】　全体指標は市民意識調査の質問と一致しているが、例えば市民意識調査の生データにある問４「お住まいの地域または市内の景観に必要だと感じるものはありますか」というようなものは具体的に指標のどこに表われてくるのか。

【事務局】　市民意識調査の質問全てが指標に該当するものではないが、調査結果を評価・検証作業の中で、自由記入欄にあったコメントを残しておくなど、そういった形で反映し、利用をさせて

いただきたいと思っている。

【委員】　指標の「眺望の保全に積極的に取り組むべきだと考える市民の割合」や「河川や池など水辺の空間づくりに積極的に取り組むべきだと考える市民の割合」は、市民意識調査と似た質問があるのか。

【事務局】　市民意識調査の問１１「あなたはこれからの町田市の景観づくりで、積極的に取り組むべき内容はどのような内容だとお考えになりますか？」の選択肢４番「河川や池など水辺の空間づくりを行う」、５番「丹沢･大山、給料の眺めを保全する」が該当する。

【部会長】　アンケート結果で遠景を重視しているという選択肢にも回答が多かったのは印象的である。

【委員】　こういったものは今回の評価・検証作業では使えないが次の目標設定に入ってくる内容なのだろうと思う。

【部会長】　このアンケート調査は完全なものではないが、気づいたことがあれば事務局に伝えていただき、次回改めて審議する様にしたい。

【事務局】　（事務局より市民意識調査について経過報告）

【委員】　問１２「景観協定や地区街作りプラン等、まわりの景観と調和させるためのルールがありますが､あなたは町田市内の建物などについてルールの改善が必要だとお考えになりますか？」については、従前値との比較ができるようにする必要があるのでは。

また、問１１や問５「あなたはお住まいの地域または市内の景観で、必要だと感じるものはありますか？」の結果など、結構具体的にどういうことを大事にすべきかというのをぜひ今後の５年間の中に反映していきたいということを感じたのと､「特にない」という回答が多い質問に関しては、これはまさに広報に関わるところも出てきそうなので、この調査で得られることが非常に多そうで良かったという印象を持っている。

【部会長】　今回の質問は新たにルールを作る必要性ではなく、現状ルールに対する改善の必要性の質問であることを踏まえて従前値との比較を行うべきかもしれない。

問８の選択肢７「町田市景観賞の実施」に対する回答が多いことについては注目すべきで、懸賞みたいなのはやはり効果があるのだなと改めて思った。

水辺空間に関する回答もあるが、恐らく子どもの遊びや生活活動とも関係しているのではないか。散策なども同様に、そういうのが市民にとって大事な時間、景観というものなのだなと感じた。その他、生活風景や街の美化活動などについての関心もある程度あるようにみられる。問１４「あなたはこれから、どのような景観に関する取り組みであえば参加したいとお考えになります可？」でも幾つかあり、問１３「あなたはこれまでに、景観に関する取り組み･活動に参加したことがありますか？」については、参加したことのある活動で街の美化活動が多くなっている。具体的には庁内清掃などに参加したということだと思うがやはり一定のボリュームを持っているということが注目すべき所ではないかと思う。

問１７「あなたの年齢は、次のどれにあたりますか？」は年齢層ごとの回答状況について示しているが、選択肢１「１５～１９歳」の方が選択肢２「２０～２４歳」より多い。一番忙しくて関心がなかなか向かないという可能性がある。

年齢別に集計するというのも良いかもしれない。６割を占める選択肢６「４０～４４歳」層が新人類と呼ばれるが、このあたりで日本の地域文化がかなり変わったのではないかと思っているので、これより上と下で区別して集計するなどやってみたい。

市民意識調査の調査結果はどのような形で公開されているのか。

【事務局】　前回の結果は報告書にまとめて公開している。

【委員】　クロス集計などの際に問１７の年齢層は分析しやすいように改めて分けるのか。

【委員】　景観サポーターや、シンポジウムに行くと、景観ものは女性が少ない印象だが、今回の市民意識調査の回答者は女性のほうが多いようである。

【委員】　男性と女性でどの様な興味持ち方の違いがあるのかというのを少し知りたい。

【委員】　子育てしているぐらいの世代の意見がうまく抽出できると、市の政策としてものせやすく、先程の水辺空間と子どもということや、活動などとリンクしてくると、取り組みの大きな柱として打ち出しやすくなる印象がある。

【部会長】　今の年齢とか属性に関連して、事務局としてどのように考えているのか。

【事務局】　年代の区分けについては、これからどういう区分けで考えていくか改めて考えさせていただきたい。クロス集計につきましては、ご意見のあった男女別の興味などできるものについては行っていきたいと考えている。

【委員】　自由記入欄は市民意識調査全ての質問に設けられているのか。

【事務局】　全部の項目ではない。それぞれの質問に自由記入欄がついているものや、問６「問５の１～９以外で、お住まいの地域または市内の景観に必要だと思うものをご記入ください」のように自由記入をしていただくだけの質問もある。

【委員】　エリアごとでどういう回答、変化があるのかも興味がある。

【部会長】　また次回、新たに出てきた集計結果を基に議論したいと思う。
部会としてはこれで審議を終了させていただく。

以上